


# 保護対象樹種・植物群落・ 動物種の生育・生息状況調査

## 評価の観点

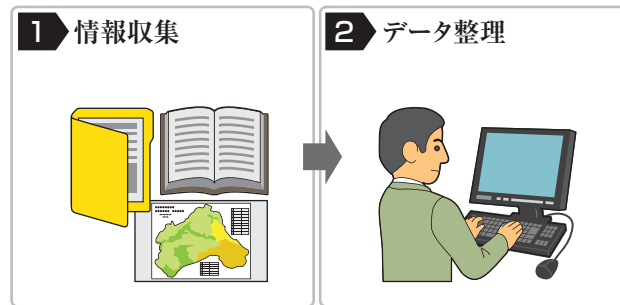
保護林等区分	観 点	調査の選択
森林生態系保護地域	-	-
生物群集保護林	-	-
希少個体群保護林	▶対象個体群が減少したり被害を受けたりしていないか。	 <p>※動物調査について、対象個体群の定量的な観察が難しい場合は生育・生息環境の調査を行うこととして「樹木の生育状況調査」「下層植生の生育状況調査」に代えることができる</p>
緑の回廊	-	-

# 保護対象樹種・植物群落・動物種の生育・生息状況調査(資料調査)

既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、対象個体群の生育状況・生息数、生息密度を調査する。



## 手順概要



## 方法と留意点

### 1 情報収集

保護対象個体群が樹木もしくは下層植生(草本)の場合は、「C. 樹木の生育状況調査(資料調査) 1.情報収集 ②資料の入手」もしくは「F. 下層植生の生育状況調査(資料調査) 1.情報収集 ②資料の入手」に準拠します。

また、保護対象個体群が野生動物の場合は、「H. 野生動物の生息状況調査(資料調査) 1.情報収集 ②資料の入手」に準拠します。

※ 保護対象樹種に関して、「C. 樹木の生育状況調査(資料調査)」及び「F. 下層植生の生育状況調査(資料調査)」を実施している、もしくは計画している場合は、効率的な調査実施の観点から、そちらの調査結果の活用を検討します。

#### 留意事項

① 収集した資料には希少種に関する情報が含まれていることがあるため、取扱いに際しては十分に注意が必要です。

### 2 データ整理

#### ① 調査資料整理表の作成

前項で収集した調査資料の一覧を様式に整理します。(様式3)

#### ② 調査地点データの作成

調査地点をGISデータとして整理した上で、「保護林情報図」に追加します。位置が大まかにしか分からない場合は、おおよそのエリアを図示します。また、必要に応じて拡大した図面を整理します。(様式4)

### ③調査資料の整理

収集した調査資料はできるだけデジタルデータとして整理します。調査資料名が分かるよう、様式に整理します。(様式5)

#### 留意事項

- ① 収集した資料には希少種に関する情報が含まれていることがあるため、取扱いに際しては十分に注意が必要です。
- ② 調査によって、調査手法や調査対象が異なることがあるため、必要に応じて調査手法等を様式の備考に記入します。(様式5)

※なお、モニタリング結果について、結果概要、評価・課題等を分かりやすい形で整理するため、総括整理表を作成します。(様式37または様式38)

#### GIS データとして整理する調査データの例

調査データ	ファイル名(例)	ファイル形式	属性情報	対応する様式
調査地点	調査地点_モニタリングサイト1000	シェープファイル (ポイント、ライン、ポリゴン)	<ul style="list-style-type: none"><li>調査名</li><li>調査地点名 (ID等)</li><li>調査実施年月日</li><li>その他</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>様式4</li></ul>